



公明党府議会議員団 副団長
八重樫 善幸

「脱炭素」先進都市 大阪へ! 提案した再エネ調達マッチング事業が実現!

府内全域で脱炭素の取り組みを

◎先の当委員会で、府域外を含めた広域的な再生可能エネルギーの利用を進めることが重要であり、再エネ利用を行う府内事業者を後押しし、府域外の

再エネ発電事業者と繋ぐ取り組みが必要では?と提案した。

◎その後、府は、提案のマッチングを促進する「再エネ電力調達マッチング事業」を立ち上げ、先月からスタートしている。その成果は?

A 【長町エネルギー政策課長】

◎先月17日に募集を開始し、現時点で需要家9者、再エネ発電事業者6者により、府内計18施設においてマッチングが成立、産地証明された再エネ100%の電力が供給されることになった。



◎需要家については、大企業から中小企業まで多種多様であり、再エネを利用する事業者の掘り起こしの成果が見えつつある。

◎供給される再エネの電源は、府内2カ所の太陽光発電、バイオマス発電のほか、岩手県、福島県、三重県の太陽光発電、風力発電である。

◎環境価値付きの再エネの2019年度の国内販売量は、全体の1%以下で、更に産地証明された再エネは、ほとんど利用されていない。今後、この事業を府内の事業者へどう周知していくのか。

A 【長町エネルギー政策課長】

今後、府ホームページをはじめ、SNS等により積極的な情報発信を行うとともに、「RE100」や「RE Action」の事務局を通じてそれぞれの加盟企業への情報提供を行っていく。さらに経済団体、金融機関や市町村等と連携し、当事業の周知をさらに強化する。

人と動物が共生できる社会をめざして

動物愛護について知事の考えを問う

◎知事就任早々、アニマルポリス設置をした理由について

A 【吉村知事】

◎動物がある意味家族の一員として動物愛護の対象として社会に大きく広がっている一方、法体系の中で物として民法上不当な扱いを受けている。この谷間をどう埋めていくのか。そこに動物愛護法がある。この趣旨を行政として十分に理解して執行し、普及していかなければならない。警察とも連携して対応するため、大阪版のアニマルポリスを作った。

◎#7122の共通ダイヤルの設置は、一定この役割を果たしていると思っているが、まだまだ不十分なところもありしっかり対応していかなければならないし、厳しく対応していかなければならない。

◎悪質なものについては、警察において積極的に検挙するように私からも働きかけていきたい。

◎府民の皆さん一人一人がこの動物の虐待について、自らの問題ととらえて行動していけるように、さまざまな取り組みを進めていきたいと思っており、人と動物が共生できる社会をめざしていきたい。



◎殺処分ゼロを目指すことや、多頭飼育による虐待、悪質なブリーダーの摘発、そして、災害時の同行避難も含めて(今後どう取り組むのか)知事の考えを聞きたい。

A 【吉村知事】

◎多頭飼育の問題や、悪質なブリーダーの問題等、商売のために見えないところで虐待が行われている。今、数量規制の問題も出てきており、ペット販売のあり方についても、いろいろな意見を聞いて取り組んでいる。

◎災害時において避難所にペットと一緒に来ても安心だという、そういったものを自治体(市町村)と協力しながらやっていく必要がある。

◎今回コロナで避難所を設置する時に、コロナの陽性者あるいは自宅待機の方をどうするかという問題に取り組んだ。それに加えて、ペットの問題についても安心して災害時にも対応できる、そういったものを作っていかなければならない。



やえがし善幸 公式ホームページ

<https://www.yaegashi-y.jp>



■八重樫 善幸・プロフィール

大阪府議会議員4期。
公明党大阪府議会議員団 副団長。環境農林水産常任委員会 委員。大阪府議会日口友好親善議員連盟 副会長。大阪府私立幼稚園振興議員連盟 副会長。大阪日口協会 理事。関西宮澤賢治の会 副会長。岩手県北上市出身、県立黒沢尻北高、国立岩手大学農学部農芸化学科(生化学研究室)卒業。日本モンサント株式会社(現在ファイザー製薬)でMR、マーケティングに従事。